

【試合結果】7/12 オープン戦第1試合：1-5で惜敗も、劣勢で光った「考える野球」と次への収穫

2026年7月12日（日）、オープン戦（第1試合）が行われました。

結果は1-5での敗戦となりましたが、当クラブの指導方針である「考える野球（Thinking Baseball）」の芽が、苦しい展開の中でも随所に見られた価値のある一戦となりました。その内容を詳しくご報告いたします！

試合結果（7月12日 オープン戦 第1試合）

- 神戸ポニー 1 — 5 相手チーム（敗戦）

兵庫神戸	0	0	0	0	0	0	1		1
	1	0	1	0	0	3	✕		5

部門別ハイライト＆成果・課題

独自の『選手成長ステップチェックシート』に基づき、選手たちがグラウンド上で発揮した積極性や状況判断力を定量的に分析しました。

攻撃部門：積極的なアプローチと泥臭くもぎ取った1点

相手投手の好投を前に合計1得点に留まったものの、狙い球を絞った個々のスイングには強い積極性が見られました。

- 迷いのないフルスイング：T.H選手が2回の初球フルスイングでチームを牽引！K.T選手、K.M選手、R.S選手、T.S選手、そしてジュニア層のT.O選手も、ストライクを迷わず振り抜くチームの約束事をしっかりと遂行しました。
- 泥臭く繋いだ出塁と打点：K.T選手、T.H選手、R.S選手、Y.M選手がそれぞれ快打を放ち出塁。6回表には、最上級生のY.M選手が勝負強さを発揮し、泥臭くタイムリーを放ってチーム唯一の打点を挙げました。

守備・貢献姿勢・規律部門：ピンチを救う超ファインプレーと高い規律

5失点を喫する苦しい展開でしたが、守備陣は集中力を切らすことなく、頭を使ったディフェンスを披露しました。

- 冷静な戦況把握：K.T選手（5回分）、T.H選手（3回分）、Y.M選手（2回分）らが、劣勢のグラウンド上でも常にアウトカウントを頭に整理し、冷静な守備位置の確認を行っていました。
- 致命傷を防いだビッグプレー！！
ランナー2、3塁という長打が出れば致命的となる大ピンチの場面で、**K.M選手**が相手打者の安打性の痛烈なライナーを卓越した集中力でキャッチ！得点を完全に防ぐビッグアウトをもぎ取り、チームを大いに救いました。

- 崩れなかった規律：どんなに点差をつけられても、全力疾走の怠慢やサイン見落としなどのボーンヘッドはチーム全体で「ゼロ」を維持！ 高い規律のスタンダードを守り抜きました。

 投手部門：エースの孤軍奮闘と強い責任感

この試合では、マウンドに上がったK.T選手が気迫のピッチングで味方の反撃を待ちました。

- **K.T選手**（投手スコア：**29点**）
初球ストライクを次々と奪い（14点分）、ストライク先行の強い意識を体现。3球以内での追い込み（12点分）や先頭打者アウトをきっちりとマークし、エースとしての役割を高いレベルで全うしました。

 今試合の個人獲得スコア一覧

指導部が集計した総合トータルスコアです。苦しいゲームだからこそ、各自の貢献度が数字として明確に表れています。

選手名（学年）	野手スコア	投手スコア	総合スコア	特記事項・輝いたプレー
K.T （中2）	13点	29点	42点	投手として29点、状況判断10点など投打にわたり圧倒的な存在感！
Y.M （中3）	16点	0点	16点	チーム唯一の打点に的確な指示。野手最高点を叩き出し背中で牽引！
T.H （中2）	15点	0点	15点	初球フル4点、状況判断6点など、高い集中力で攻守に貢献。
K.M （中2）	7点	0点	7点	ランナー2・3塁の危機を救う安打性ライナーの超ファインプレー！
R.S （中3）	5点	0点	5点	フルスイングや手堅い安打を含め、気迫で野手5点をもぎ取る。

T.S (中2)	4点	0点	4点	初球フルスイングなど、積極的な打席アプローチを実行。
K.I (中2)	3点	0点	3点	目立たない場面でも基本を徹底し、野手3点を手堅くクリア。
T.O (中1)	3点	0点	3点	初球から恐れずフルスイング！ジュニア層として確実に実戦で加点。
K.Y (中3)	2点	0点	2点	チームのために確実に役割を果たし、野手2点をキープ。

指導部総括

スコアボード上は1-5での敗戦となりましたが、実戦を通じた状況判断力の磨き上げという点において、当クラブが掲げる「アグレッシブさ」と「考える野球」が随所に発揮されたゲームでした。

最上級生のY.M選手がタイムリーや的確な指示でチームを引っ張り、K.T選手やT.H選手が冷静に守備をコントロールしたこと、そしてK.M選手が見せた大ピンチでの素晴らしいキャッチは、私たちのディフェンス力が着実に向上している証明です。

一方で、個々の出塁を「線」の攻撃に繋がられず、単発の1得点に終わったことは次戦への明確な反省材料です。中1のT.O選手らも含め、全員が初球から振り抜く「個の積極性」は育っています。だからこそ次は、この個の力をチームの得点へと昇華させるための「チームバッティング(進塁打)」や「走塁の状況判断」の精度を、日頃の練習からさらに研ぎ澄ましていきます。

敗戦を糧に、チームはもっと強くなります。引き続き、兵庫神戸ポニーベースボールクラブへの温かいご声援をよろしくお願いいたします！